

脳幹部膿瘍により神経症状を呈した  
ホルスタイン種子牛の1例松本高太郎<sup>1)†</sup> 村上智亮<sup>2)</sup> 菅生樹春<sup>3)</sup> 山田一孝<sup>1)</sup>古林与志安<sup>2)</sup> 松井高峯<sup>2)</sup> 猪熊 壽<sup>1)</sup>

1) 帯広畜産大学臨床獣医学研究部門 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)

2) 帯広畜産大学基礎獣医学研究部門 (〒080-8555 帯広市稲田町西2線11)

3) サホロリゾート ベア・マウンテン (〒081-0039 上川郡新得町字新内西6線158)

(2009年6月15日受付・2010年1月4日受理)

## 要 約

17日齢のホルスタイン種雌子牛が、神経症状を示した。病畜は頭部を左後方に折り曲げて伏臥姿勢を示し、時折自力で起立したがすぐに倒れ歩行不能であった。神経学的検査では右の対光反射、威嚇瞬き反射、眼瞼反射、および音響耳介反射が消失していた。ビタミンB<sub>1</sub>およびデキサメサゾンの投与により第7病日に歩行可能となったものの左への斜頸・旋回が認められ、神経学的検査所見に改善は認められなかった。第7病日に病理解剖を行い、肉眼的には橋の断面右側に直径1cm大の膿瘍を認め、嫌気培養にて*Fusobacterium necrophorum*が検出された。左側への斜頸、聴覚の消失等の脳神経症状は、橋の右側の膿瘍により内耳神経等の脳神経核が圧迫された結果出現した聴覚障害、平衡障害のためと考えられた。——キーワード：脳幹部膿瘍、牛、*Fusobacterium necrophorum*。

----- 日獣会誌 63, 351～354 (2010)

† 連絡責任者：松本高太郎 (帯広畜産大学臨床獣医学研究部門診断治療学分野)

〒080-8555 帯広市稲田町西2線11 ☎・FAX 0155-49-5372 E-mail : kmatsumoto@obihiro.ac.jp